京城新報

人の一生は重き荷を負ふて遠き道を行くが如し急ぐ可からず

明治四十四年紀元二千五百七十一年
本紙定價 一枚金二錢 一ケ月前金三十錢 三ケ月前金九十錢 六ケ月前金一圓八十錢 一ケ年前金[illegible]
廣告料 [illegible]
發行兼編輯人 [illegible]
印刷人 [illegible]
發行所 京城 京城新報社
仁川支局
東京支局 東京市京橋區南佐柄木町七番地

雜報

●群山通信（八月四日）

○今回の洪水に就て出水の當時は稲田[illegible]被害の實相を了知するに苦みしも其後[illegible]の踏査なる[illegible]に依れば全羅北道は[illegible]被害を被りし稲田面積四千町歩餘[illegible]稲田の被害は僅に[illegible]の一部に過ぎず[illegible]に比し極少なるの如くに有之候

○之を要するに當港の貿易方面たる[illegible]の米作上より見れば[illegible]本年の作柄は多少水害の影響を受けしや[illegible]一方より見れば[illegible]本年は[illegible]作付反別は[illegible]計十八万町歩の作付反別となり前記の[illegible]は平年の作付反別以上に達し結局今後の天候にして適順ならんか今秋の收穫は遙に平年以上の豊作を期せられ申候

○昨今經濟界の状況を見れば貿易界は輸移出入共前月迄は前々月と同様頗る盛況を呈し居りしも本月に入り中旬以降例年の例を追ひ夏期閑散状態に陥り夏枯に陥り洪水後地方より米の廻着寡なると内地米價不廉の影響を受け輸移出更に振はず僅に牛皮及大豆行白米の輸出等ありて餘喘を保ち市場寂寞を極めて門前雀羅を張るの光景に有之候

○反之輸入は不相變好況を持續して其趨勢少しも衰へざるは如何にも不思議にて全く例年になき新現象に有之これ畢竟前報せし如く全く當地方の好景氣に基因するものに外ならず候（續く）（[illegible]面生）

●夏蠶飼育と古新聞　平安

南道女子養蠶傳業講習所にて先頃來飼養中なりし夏蠶は其飼育期中僅かに三日間の晴天を見たるのみにて殆んど全く雨期中に飼育されたるにも關はらず非常なる良成績にて去月三十日何れも上簇したるよし因に講習所にては同夏蠶飼育につき灘波嘱托の考案により試験的に蠶箔の上敷に莚を用ひず代ふるに古新聞を以てしたるに是亦頗る良成績を得たりと斯くの如き試験は日本内地に於ても始めての事にして從來養蠶家は何れも古新聞を以て絶對に不可用物とし曾て試験的にも用ひざりしものなるに今回實驗の結果は毫も差閊なき事を確證されたれば今後の蠶業經濟上少からざる貢献をなすこととならん尤も日本内地に在りては氣候及び空氣の關係上古新聞紙を上敷に用ふる事は多少考へ物なるべしと見る[illegible]因に新聞紙を用ゆるに當りては充分に日光に晒したる後に非ざれば印刷インキに混和せる石油の爲めに害を受くべしと

●朝鮮下向記（三）　ヤンモース

沿線の平原は青々たる稲葉を以て[illegible]られて居たのは案外であつた。只山と河とが荒廢のまゝ残されてあるが此殖林と河身改修とに就いては將來の自治體の財源とし目下の窮民の仕事とし其他殖ふ可き木や、勞働効程等胸に浮ぶ數々は他日を期し大に總督府に進議し論究することとして差し當つて感じた事を述べ様と思ふ。

鮮民啓發の第一要義は鮮民をして欲望（消費心）を增さしむる事である。人或は云はん、彼等に貯蓄心なし、何ぞ消費心を増さしむるを要せんと。僕の云ふのは此意味でない、生活程度の昇上である。彼等は麻衣一着に安じて居る、彼等は眞瓜を以て一回の食を充たして居る、彼等は豚小屋に蟄居して居る、彼れが如き欲望、彼れが如き消費心に滿足して居ては如何にして産業の隆盛、文化の增進を得やうぞ。其手に蝙蝠傘を與へ、其頭に帽子を與へ、其衣に色彩を加へ、其足に履物を與へよ、其家に家具調度を以てし、食ふに米飯を以てし、卵菜魚肉珍味佳肴を以てせよ。若し此風潮が滔々として鮮民を風靡すれば彼等は到底路傍に蹲踞し煙管を咬へ[illegible]閑居するわけに行かぬのである。此汽車の同席に居る鮮人の自ら云ふ所によると密陽に住つて三萬斗落の田地を有して居ると云ふ事であるが然し停車場を出て大きな荷包を背負つてテク〳〵歩くに至つては一日我が[illegible]の[illegible]よりも貧しい生活に安じて居るのかわからぬのである。我國維新當時の[illegible]程の[illegible]は今にして思へば朝鮮に甚だ必要なると思ふのである。

借て彼等鮮民の生活程度昇上に伴れて收入増加を餘儀なくせらるゝとすれば働く可き仕事は山の如く與へる事が出來るのである、養蠶、製絲、製織、其他穀の副業、道路、橋梁、河川改修等の土木、其他生計日常の工業品製作等、百種百様の事業皆何れも頑健無比の彼等の手を押して入るを待つて居るのであると、ナド、思つて居る内八時半南大門停車場着。

出代　妙子の兄

れかめが出て行つた跡へ來たのは小富と云ふ中國生れの女で當年二十七歳と云ふ。一寸勢うな女中には惜しい色白の器量崩しの如に見ゆる女だ。夫れの自ら話す所に依ると彼れは十八の歳に初婚したが姑と云ふのが誠に酷い鬼婆で朝でも少し遲いと夫婦で寢て居る處へ遠慮も無く怒鳴り込む、と云つた風で兎ても辛棒出來ない處から三ケ月で自身の方から追ん出て終つた、其後一年程して今度は兩親の無い旅の人に嫁したが此れが又素敵な酒呑みでしたが夫れの祟りか長らくブラ〳〵して居ましたがロウヤク昨年の秋死にましたので肩が輕くなりました。と妙子は惜げ無い顔を外向けて何にも言はずに自分の部屋の方へ立つて行つて了つた。僕には妙子の心は明に讀まれたのである。

其の夕僕は書齋に在つて調べ物をして居ると急に暗く成つたので手を叩いて千代子に作燈を持ち來る可く命じた、面して「急いで」と云付たのに五分も掛つた、其間に僕は二度程も早く〳〵と手を叩いた。

「何うしたのか」と訊きたくなつた。

「何うしたのですか」と訊くと、千代子頗るモヂ〳〵して居たが翻て思い切つたと云ふ如に。

「お掃除をして居ましたものですから濟みません」と頭を下げる。昨月から[illegible]

「小富に早くお掃せなさい」

「ハイ」と云つた千代子は未だ何か云ひた相だ。

「何うかしたの」と訊くと、

「小富に左様申しましたら、私は左様云ふ約束ではない臺所だけの筈でなと斯様に申すのですの」と面目なげである。書齋へ妙子は入つて來た。

「兄さま、姉さまが被在るから宅に下女は不用なのヮ、[illegible]れ歸りになるから、チー姉さまと云ふ。

「馬鹿に下女の評判が悪いぢやないか、何うしたんだい」と僕は向き直る。

「貰うものは約束より餘計でも、頂くだけ仕事は約束丈しか仕ないなんて云ふ下女を使つてるとね、少うし姉をする爲めに家の者が皆んな卑しめられる如になります、世間の人から」

此の妙の一句が現在の僕の家に下女を置かない原因となつたのであるのだ。

文苑

●夕月　佐藤某女

○耳病みて
耳の鳴る苦痛の長夜吾が心うつけてひとり安寢しがたき
吾が病める宵寢の床に山越ねて琵琶歌送くる松風の音

○植物園に住む人
翠香とダリヤなでして紫ね手ふよき香たゝよふ中に住む人

○
日は紅きデゼーに消ねて夕月の影さす窓に花の香迷ふ

○秋
松風の音なづかしみ柴の戸に月花したしむ人ぞ戀しき

召使れ初　第百二十四回　黒法師

れ察の徐て〳〵座を起たんとするを、れ道は徐かに呼び止めぬ

「好い物進せう、これに大和當麻寺中將姫御符がある」

「有難うござりまする」

れ道は手文庫の中より、紙に包みたる御符を取り出で

「これは私のれ母様、大和郡山に在らせの間、申し受けて御持ち歸へあらせられたを、私の手へ下されたのぢや、當麻寺御符は諸病に験がある」

「大切な物、忝うござります」

「勞咳は難治と云ふ、ぢやが誠を以て御介抱申し上げたりや、本復あるまいものでもない、血筋の縁は格別、一心の誠を注いで、爲る限り介抱するぢや」

「私、命に換ねても、今一度本復させたいと心得まする」

「うの覺悟忘れぬやうに、時後れてはならぬ、急いで行きやの」

「私居りませいでは、朝夕御不自由とも存じまするが、暫時の御暇を願ひまする、父上御容體、少にても快い方とござりますれば、何事を捨て置きても、直立ち歸るでござります」

「後には少も心配無いでの、十分に介抱の誠盡して喃」

「有難うござります」とれ察は幾度も云ひながら、何とは無く後に心を牽かるゝやう覺ねて、急には座をも立ち難ぬき

「早う往かぬかの、やがて御門限ともならば、其無い身が、御出入は爲らぬで無いかの」

「御時節が御時節、れ奥には恐しい奸佞蛇蝎まりありまするで、私實家へ歸り在る間、旦那様れ身の上に萬々一の事どもあるまじきかと、それを苦勞に致すでござります」

れ察は當家大奥の状態に鑑みて、れ道の上を懸念するなり、その身無き中、澤野一派の執念深き手、もし旦那様れ頭の上に掛ることとあらば什麼とか爲るべき、旦那様も歷とした武家の出、表面は海老屋鶴兵衛娘分とあらせたまふも、和州郡山本多國御家老をも勤めさせた正木佐五右衛門様御息女、たゞに覺ねも在まう、澤野相生等々しい手練もて迫るとも、身を守らするに難くはあるまじきも、陷穽を巧に作る者は智慧に富へた白狐さへも生擒にする世の中、旦那様御身の上に災害來らば、孝道も反古となり、後々不忠の名を取らん。憂き時は神様のれ袖に縋りて、南無八幡大菩薩、南無金比羅大權現、私實家より歸るまで旦那樣の御身を守らせたまへ、偏へに〳〵旦那様御身を守らせたまへ

「私の事は懸念せいで、一念たゞ父御の御介抱に盡し參らするぢや、よいの」

とれ道口には云ひながら眼には惜別の涙堪め難ね

「そなたれ父様早や老年あらうのう、私は目に掛つたこと無いも縁あつてそなたを部屋に使ふからは、他人とも云はれぬ、心ばかりの土産てゝに買ひ合はせた品がある、柴舟と銘はあるも、聽いて見ねば分らぬ、病中に薫を聽くは苦痛を忘るゝ料ともなる持て歸るかの」

「頂いて參りまする、旦那様より頂戴の物と聞いたら、親父様何の様に歡ぶか知れませぬ」

れ道は高繪せる香箱を帛紗に包みてやがてれ察の手に渡しぬ

「旦那様、れ暇を頂きまする、當分のれ別れ、れ身体をれ厭ひ遊ばしませ」

京城新報

南極探檢隊を援けよ

日本帝國民は古代から海國男子として海國民に後れを取らぬ歷史を有てゐる使つて海外に雄飛した者も尠なくなかつたのである。然るに德川氏の鎖國主義は自然國民の對外思想を壓しつけて再び海國男子の氣慨を見る事を出來なくして仕舞つた、所が、明治聖代の新有るには、商船事業の進歩、水產業の發達、海軍力の擴張に伴ない、國民の海事思想も稍々昔日の面目を改めはしたものゝ、今尙板子一枚下は地獄てふ觀念は全く消ゑてゐないために、探險事業の如きは比較的發達してをらぬ、此時に當つて南極探檢の快擧を試みて國民的氣慨を世界に示したものは、白瀨中尉の南極探檢隊である。而かも白瀨探檢隊が南極に向つた時は、極地渺く極寒に向ひ、風雪亂れ飛び、氷山撲碍、到底人力の如何ともすることが出來なかつたのである、此時に際して白瀨中尉が暴虎馮河の男に嘲られたならは、折角の快擧も水の泡となるは蓋し當然の事である、之を白瀨中尉は克く耐ね忍びて再擧を計るの所置に出たのは、匹夫の勇を排して眞正の勇氣を發揮したものとして大に推賞の價値がある、總て大事業を爲すには忍辱を以て第一に置き、再參三擧一墜能く千丈の鐵壁を敗り盡すの覺悟がなくてはならぬ。特に極地探檢の大業は個人的事業ではない、國家的世界的の性質を含むでをるものである、荀も人類の住所として其乾坤はどんなものであるかと云ふ智識を闡明することの出來ないのは、これ即ち世界萬民の耻である、一ツ極地の地勢地象天象海象より來る影響はどうであるか、其が解らぬのは科學上の一大缺點と云はねばならぬ。これが爲に世界で名を知られてる國々では、極地探檢者を國際的競爭選手として待遇し、探檢準備に對しては有らん限りの後援を與へてをる、其のスコット氏やシャックルトン大尉等の探檢隊其他白耳義獨逸などの探檢船が我白瀨探檢隊と較べて羨ましい程準備の整頓してをるのは舉國國民後援の然らしむる所である。不幸にして沒常識より來れる我政府の冷淡と、國民の極地探檢觀念の不足であつたがために、志氣の昂れることと敢て他に遜つてをらぬにも拘はらず、準備の點に於て後れを取り、終に白瀨隊を乘せたる開南丸が極地に向ふ好機會を逸しませたのは實に慨事である、されど極地探檢の如き難事業が一回で首尾能く成功すると思ふのは間違である、幾度も失敗し失敗の經驗が遂に最后の勝利を得ることゝなる。今や野村開南丸船長歸つて探檢隊の消息を傳へ、國民の同情は潮の寄せるが如く白瀨隊に集つてをる、加之白瀨探檢隊は列國環視の中に立つてをる、これ取も直さず我國民が國際的競爭場裡に立つてをるので、之をして思ふ様活動の出來るようにするのは國民の義務である。乃て大隈伯爵を中心として南極探檢隊後援會が組織せられ、過日の本紙に掲げてあつた通り、汎く資金を同情者に仰ぐことゝなつてをる。當地の諸君も、どうか之れを他所事と思はず、金額の多少に拘はらず奮つて國家的探檢事業の資金に投せられむことを吾人は切に希ふて已まないのである。

東京電報

▲獨帝言明せす 伯林來電に依れば獨逸皇帝陛下はタイチシユンデ温泉場より還幸せられたるも摩洛哥問題に關しては未だ何等言明を與へられずと

▲日佛間の條約 日佛條約は昨三日を以て期限滿了する次第なるが期限前新條約締結の運びに至らず結局無條約を免れずと

▲日墺暫定條約 日墺條約は昨三日を以て日佛條約同然期限滿了せしが本日暫定取極書の調印を爲す筈なり

▲總督府法規公布 本日の官報にて朝鮮總督府及所屬官署の賣買貸借は隨意契約し契約書を省略の件及び度量衡器等の賣拂代金延納に關する件公布されたり

▲颶風尙去らず 高氣壓は東海岸に在り颶風は小笠原島西方海上と臺灣南西方バツシー水道附近に在り何時又東京方面を逆襲するやも知れず茲數日間は天候豫測し難し

▲陸軍部官制發表期 駐劄軍司令部條令廢止と共に新設さるべき朝鮮總督府陸軍部の官制は本月下旬發表さるべし

▲聖上御軫念 東京府下に於ける過般の暴風雨に對し其損害の多大なるを聞召され救恤金御下賜の御詮議中なりと云ふ

▲寺内大尉葬儀 總督令嗣寺内大尉夫人の葬儀は三日午後一時麻布寺町の自宅出棺綠地異光寺に於て葬儀執行されたるが文武官民の會葬者千餘名に達し非常の盛儀を極めたり

▲綿商の一大恐慌 先月下旬より米綿の暴落に次いで印度綿も又暴落し綿花商間に一大恐慌を惹起されんと

▲風俗壞亂の活動寫眞 近年活動寫眞の流行甚しく中には特に風俗を害し公安を害するもの少からざるを以て内務省にては取締に關し各地方長官に訓示せり

▲衆議院議員の渡米 去一日衆議院議員各派交渉會に於て議員渡米に關し相談ありたり

雜報

●寺内總督訓示

……小學校教員に對して……

寺内總督は二日午後四時半より目下京城に開會中の夏季講習會の出席者たる内地人小學校教員百十餘名を官邸に招集の上別項の如き訓示あり各御眞影に敬禮をしたる後京城ホテルに於て一同に簡短なる立食の饗應あり午後七時退散せり

予の茲に更めて言ふ迄もなく國民の子弟を教育するは重大なる事業なり而して其教育の精神たるや謹て下し賜はりたる教育に關する勅語の御精神を深く服膺せし健全なる國民を作り上ぐるにあり健全なる國民とは身を修め家を齊へ各自職業に勉勵し其の業を樂しむものを云ふ

小學教育は單に學術技能を教授するにあらず他日世に立ち人となり人と交はり職を力め國家に盡すの人物を養成するを主眼とす已に一人前の發育を了りたるものが進んで專門的教育を受くるは格別なれども其の前提として健全にして品位ある國民を養成せざるべからず要は物識を作るにあらずして人を作るにあり母國を離れて新開地に渡來するものは動もすれば母國の感化薄弱なる傾向あるを以て母國を愛し天皇陛下に對する奉公の念を養成するは内地に比し一般の努力と工夫とを要す陛下及國家に對する觀念を作るの必要は最も切實なりとす併せて朝鮮人が吾帝國の人民となりたる今日の機運に於て母國人民の此の地に來るもの深く注意して文明の民たる心懸を失はざる可からざるを要す此の心懸を以て朝鮮人を指導するの意思なかるべからず然る後朝鮮人と親み朝鮮人も亦吾に親み遂に指導を仰ぐに至るべきなり此の精神を以て穩健なる發展を爲さんか昔時の個土たりし此の民を充分同化せしむるを得べきなり小學兒童に此の精神を注入するを要す

凡そ吾人の事業の内國民の初等教育を掌れる諸君の任務は重大なるものに屬す如上の精神を以て自ら模範となり兒童を感化せしめて之を實施せしめざるべからず

高尙なる學問は論外として堅牢なる意志を以て他の人民に模範を示すものは國民として最も強き國民なり此の如き國民を作るには幼時自國の歷史を學び自巳の職業に力め國家の利益を圖るの精神を充分に養成せざるべからず此の精神を有する國民を以て充塡せる國家にして始めて世界に誇るに足るべし諸君が此の精神を以て教育せられん事を望む

予は講習會にも出席したき考を有したるも多忙の爲め其の意を果さゞるを遺憾とす本日此の機を利用し一言諸君に告ぐる所なり

●日佛協會組織

在京城佛國總領事バイヤ氏は今般京城に於て日佛協會を組織せんとし去る一日明石憲兵隊司令官を其本部に訪問し協議したるが其目的は語學の進歩と會館を購求して文庫を成立せしめむとするものにて追ては東京の日佛協會と聯絡を取る筈なりと尚其會員は岡少將を初め小宮李王次官、渡邊大審院長、同領事館員等なりと云ふ

●濟生院役員

過般發布ありたる濟生院規程に基き去る七月廿七日付を以て宇佐美内務部長官を其院長に藤田醫院長、明石警務總長、國分、關谷、小原、兒玉の四局長、柳參與官、兪京城府參事等其評議員を命ぜられたり

●總督の東上期

寺内總督は三日出發の處都合により五日王世子殿下と同行出發の筈にて隨行員は外波武官桑原秘書官藤田大尉に決定し兒玉秘書官は同行せざる由なり

●王世子も東上

王世子殿下は御生母の本葬儀も既に終了したるを以て來る五日寺内總督と同行東上のことに決定したり

●寺内總督告別

寺内總督は四日昌德宮及德壽宮へ參候東上告別の挨拶を爲すべしと

●臨時長官會議

寺内總督は愈々來る五日東上に付て不在中の政務に關し豫め打合せ置くの必要ありとし三日總督官邸にて臨時長官會議を開きたるが出席者は山縣總監、倉富、石塚、荒井、宇佐美、明石、俵、池田の各長官菊地小城の長官代理等にして尙四日も引續き開會する由なり

芳賀博士の講演（二）

……教育會に於ける……

其の後年所を經て鎌倉時代にいたり佛教は漸次日本化し遂に日本獨特の宗派を形造くるに至り即ち法然、親鸞、道元、日蓮等の名僧相踵で輩出し各自別種の宗派を開き當時の武士道と相俟つて國民の精神を涵養し元氣の鼓吹に努めたり爾來支那の宋の時代に於いて新たに禪宗來り之れ亦武士道と相俟つて異常の發達を遂げ他の宗派を風靡せしが國民は常に之れが反面の弊害に犯さるゝことなく毅然として大和民族特有の本性を發揮したり、而して當時漢學の流行は從來よりも甚だしく國民は孰れも漢學を學ばざれば支那の侮蔑を蒙るものとなし三尺の幼童尙讀ふて漢學を學ぶの狀態なりしが而も國民は漢學より得たる支那の國家的惡思想に感化さるゝが如き事なく唯に其の長所のみを取り併せて彫蟲剪栽の技を實驗するに過ぎざりしなり、而も當時孔孟の教は本國の支那には實行されずして却つて日本に於て遵奉され忠君孝悌の美風は益々日本國民の頭腦に浸染し愈々國民固有の思想を堅むるにいたれり、其後德川時代に至りて儒學盛んに起り物徂徠の輩出でゝ之れが發達を計り以て國家的思想の鼓吹に努め一方巾幗者流の輩出でゝ優婉典雅の思想を鼓吹せしかば國民的向上心は爰に俄然として起り一國の元氣は躍如として表はるゝに至れり、然れども當時の學問は單に廟堂の執務者流武門の士及び篤學者に限り一般の平民は殆んど與り知らざるを以て一國を打つて文物思想の統一を期する事は難かりしが間もなく芭蕉、西鶴、近松等の輩出でゝ平民的文學の鼓吹に勗めたりしかば爰に一般の平民は砂漠に清水を發見せしが如く爭ひ讀ふて之等文學の興趣を味ふに至れり要するに學問としての佛教、儒教及び之等の文學の普及は言ふ迄もなく今日の日本を釀成せし所以にして思ふに元祿時代の文學者は當時の文運の隆盛に鼓して或は今日の日本あるを豫言せしやも知るべからず而して近代支那朝鮮には日本の如く清新にして生命ある文學なく殊に朝鮮の如きは舊態依然歟に古代の糟粕をのみ嘗め一人の起つて文運の進歩に貢獻するものなく國民孰れも醉生夢死の裡に生を送りしを以て遂に今日の狀態に陥りしなり今更ながら一國の隆替盛衰は言ふ迄もなく文學の盛衰如何に依るものたるに想到せざるを得ず而して世人の論者はいふ朝鮮人は如何に教育するも其の効なし却つて之れに教育を施さんか巧智猾才徒らに多きに過ぎて如何ともすべからずと、然れども予は益々教育を奬勵せんことを望む況んや由來同種同文の民に於てをや而して此の一千二百萬の新附國民の教育は諸氏に負ふところ多し諸氏能く邦家のため奮勵せよ聊か日本帝國の發達の跡に稽へて朝鮮に比すと云爾。（をはり）一記者

●繭絲台覽

京畿道にては管内京城外八ヶ所の原蠶授產場にて生產せる四十四年内地種春蠶繭一函及京城授產場生產の繭絲一函並南陽、驪州兩公立普通學校生徒の生產に係る繭一函と皇后陛下の臺覽に供すべく寺内總督東上の際携帶捧呈すべしと

●定州の水利工事

東拓會社にては豫て全羅南北道を初め十三道の各所に水利工事を起さんとする計畫あり昨年より本年に掛け實地調査に從事しつゝあるが右工事計畫の中平安北道泰川郡定州を距る九里の個所は數千町步の畑地にして所有者鮮人某なるものが如何にかして水田と爲さんとして十數年來經營苦心せしも資力乏しき爲め其の意を果す能はず從つて昨年東拓會社に對し或る契約の下に經營されたき旨を交涉し來りたるより東拓會社にては一方總督府に出願し本年三月頃前記の如く實地調査に着手し本年中にて完了する由なるが該事業は困難なるものなりと云ふ

●手形交換成績

七月中韓國銀行内なる京城手形交換所に於て行ひたる手形交換高各銀行別に記せば左の如し

▲持出手形の部▼

行名	枚數	金額
韓國銀行	[illegible]	[illegible]
第一銀行	[illegible]	[illegible]
百三十銀行	[illegible]	[illegible]
十八銀行	[illegible]	[illegible]
漢湖農行	[illegible]	[illegible]
朝鮮商業	[illegible]	[illegible]
韓一銀行	[illegible]	[illegible]
漢城銀行	[illegible]	[illegible]
京城郵便局	[illegible]	[illegible]
計	[illegible]	[illegible]

▲仕拂手形の部▼

行名	枚數	金額
韓國銀行	[illegible]	[illegible]
第一銀行	[illegible]	[illegible]
百三十銀行	[illegible]	[illegible]
十八銀行	[illegible]	[illegible]
漢湖農行	[illegible]	[illegible]
朝鮮商業	[illegible]	[illegible]
韓一銀行	[illegible]	[illegible]
漢城銀行	[illegible]	[illegible]
京城郵便局	一、八〇七	一、〇〇九、六六九

●滿洲日々獨立

關東州都督府公布式にして南滿鐵道の御用紙たる滿洲日日新聞は去る一日より元臺灣日日新聞社長守屋善兵衛氏の手に移り獨立經營の旨宣言書を揭出せり同紙の聞くところに因れば同社は近かく株式組織に變更せらるべしといふ

●昌德宮送別宴

李王及同妃殿下は四日正午より昌德宮に於て午餐會の御催ある筈なるが當日は寺内總督並に王世子殿下東上の送別宴にて山縣政務總監も參列すべしと云ふ

●德壽宮石造殿晩餐會

李太王殿下には三日午後六時より李王殿下及李王世子殿下並李寀李埈閔公閔長官小宮次官王世子隨行員其他十數名と共に德壽宮石造殿に於て晩餐會を催さるゝ由

●李王殿下御出門

李王殿下には三日午后五時昌德宮御出門石造殿晩餐會御參列の爲め德壽宮へ成らせらるゝ由

●講習會場未定

來る七日より當地に開會の筈なる公立普通學校教監の講習會場は漢城師範學校なりしも急に變更する事とし目下撰定中なりと

●鮮人講習會好況

目下漢城師範學校内に於て開會中なる鮮人教員の講習會は出席希望者非常に多かりしも何分講習會場の狹隘なるため僅かに百六十四名だけに決定せるが來る六日閉會の筈にて四日若しくは五日には總督府學務局より編輯官出席し科外講演あるべしと云ふ

●麻浦の監獄工事

再三報導したる麻浦に於ける京城監獄の新築工事は既に起工の筈なりしも屢々監獄當局者より設計の變更を申出すため其都度工程を更正するの必要ありし爲め漸く今回設計も確定したるを以て八月中旬より起工の運に至るべしと云ふ

●東拓第二回の移民募集結果

東洋拓殖會社にては既報の如く本年二月より第二回の移民募集に着手し居れるが募集戸數は一千戸の豫定にして昨日迄の申込戸數は五百戸なるが尙昨今移民の趣旨を明にせんために九州地方に出張せる社員の報告に依れば同地方一圓にて豫約を申込しもの百戸ありといふ而して今回募集せし移民は來年二月農事季の初めに渡鮮し同時に第三回の募集を爲す豫定なるが今回は昨今のところにては第一回[illegible]戸數よりも三百[illegible]增加せし[illegible]り因に募集締切期日は本月卅一日なりといふ

●雜誌朝鮮銷夏號

雜誌朝鮮八月の號は銷夏號と銘打てるだけに表紙の意匠見るだに涼し氣を覺わしめ帶中挿める數十の風景寫眞亦悉く凉味掬すべく記事に至つては釋尾氏の「夏と山、山水と人世」山水の靈氣を說くに氣韻高き筆致を以てす同氏の「朝鮮の山水」に隱れたる鮮山鮮水を紹介せる氣焰も終に凉味を以て終り、大隈伯の「炎天熱地と鬪へ」は吾人の意を強うせし事幾何ぞ、隈本中學校長の「避暑何かあらん」是亦吾人の意を得たるもの特に暑中休暇を行ふは其利其不利頗る研究に値すと云へるは一般の注目すべきもの、明石少將の「露都の夏」森安博士の「獨逸キールの夏」荻田氏の「避暑地としての瑞西」望天吼の「朝鮮の名山」告天子の「夏の金剛山」など何れも暑中の好讀物「我輩と夏」は幾多名士の中の感想を集め十人十色各々異なる所頗る面白し此他文藝俳句欄共夏の趣味を鼓吹して餘さず、總て盎然何れを讀みても銷夏號の名に恥ぢざるは逍に編輯の苦心を想はしむ（一冊二十五錢本町日韓書房にあり）

●平安南北商工調査

平安南北道に於ける商工業の狀況調査のため商工課の鈴木囑託は約三箇月の豫定を以て來る五日出張すべしといふ

●總督府增築廳舍の竣工

總督府廳舍增築工事は其後日々進行し本月三十一日までに竣工の豫定なりしも既に全部の工事を終り僅に室内裝飾等に多少の時日を要するのみなれば本月二十日頃までに竣工檢査をなし受負者より引續き直ちに農商工部、度支部、法部等を移らしむる筈なりと云ふ

●京畿金融組合設立準備

既報京畿管内に於ける金融組合中本年度增設さるべき五ヶ所は理事たるべき内地人も悉く赴任したれば今後組合員の募集を終れば何れも直に開業すべしと云ふ

●開寧地方の害虫發生

慶尙北道開寧郡谷世面を中心とし各所に害虫發生せり目下の處にては被害の甚だしきものなきも所轄警察署は人民を督勵して驅除に奔走中なりと

●大屋長官の歸任

久しく東上中なりし大屋鐵道局長官は二日夜南大門驛着歸任したり停車場には鐵道局員其他官民多數の歡迎盛んなりし

●北島博士の通過

來る九月羅馬に開會すべき萬國結核豫防會議に參列すべき北島醫學博士は來る十三日新義州通過西伯利鐵道にて渡歐する事に內定せりと云ふ

●藤原書記官の東上

藤原度支部書記官は明年度豫算其他大藏省と交涉の用務を帶び來る七日頃東上すべしと云ふ

●森安博士等歸院

江華島[illegible]ペスト病原調査の爲め出張中なりし森安博士山口醫師は調査を終へ一日歸院せり

●趙子の總督訪問

子爵趙重應氏は三日午前九時半寺内總督を同官邸に訪問したり

▲京城手形交換高▼

八月	金高	枚數
三日	一二八、八八〇、八五〇	三七二

▲茶殼▼

寺内總督の歸東出發は三日だと云はれた、で、三日の朝には南大門驛へ出掛けたものが幾らもあつた▲トロが例に因つて例の如く何者かゞ言ひ觸らした總督の出發日はウソであつたアー何て間が惡いんでしようとは、南大門驛へ無駄足をした人の言草である▲總督と云へば、伯の嗣子壽一大尉の夫人百合子は、一日發行の大阪每日新聞に因ると、毒死をしたのだツウた、夫人は過日來胃腸を病んで居たのだが覺悟か過誤か、二十九日の夜毒藥昇汞錠をオブラートに包みて服し、苦悶吐瀉の後ち三十日午前三時落命したのだツウだ▲嗚呼其の伯は今や權勢朝野に並びなく、空飛ぶ鳥も將さに落ちんずる勢ひ、其嗣子壽一大尉の夫人が、過誤ならば仕方がないが、若し覺悟で慘死をしたものとすれば、开は甚だ氣の毒な事で、而して其氣の毒の裏には何かの事情が伏在せねばならぬと思ふ。

京城 藝妓の半生　清華亭 丸子（三）

衣玄關へ人力車で乘り着けた小笑は出迎へた仲居に向つて『良人に一寸逢はして下さいナ』とムカ付く胸を撫で下して言葉は優しいが高飛車に出た、凡そ仲居奉公をでもする程の人間は逢つて居ても藝妓の顏と名と位記憶して居ないものがあるものでない、一目でハハア開進亭の小笑さんだと思ふと森さんをお迎ひだナと覺つた、更らに『良人のに逢はして』と來るに及んで其れ行儀の宜い洋犬チン〳〵どころは御座つたの無ナと思へば可笑しくもあるが又無理もない血な氣もする二三押問答の末門前掃ひを食はすのは手間暇要らぬが女同志の思ひ遣りから『アラ小笑姐さんでしよう、良人と仰云ると……』と笑つて掛るが『森さんの』と云つた切りニコリとも仕ない、小生意氣なとは仲居の腹だ『森さん、森さんなら御在やいますがね、家の丸子ちやんの良人なんだから御都合を伺つて見ましよふ』と立上つた所へ、ハヽハヽ、ビックリ顏を出したのが丸子方の參謀長たるれつる、小笑の如きは眼中に無いのだ飛ばうと跳ね樣と、從つて小笑の乘込は問題にしないが恐ろしく怖い顏をして突つ立つてる小笑を見るなり『オヤ小笑ちやん善くねね、男てッ者は何故彼樣なんだらう、眞實に手頼りないツねね、お上んなさいよヲア』と手を取らんばかりの接待振りに少々勝手が違つたので怒りもされず座敷へ通つた丸子の前と云ふのだから鼻と其の甘い處を見せ附けて掛てれ歸んなさい〳〵を連發するが場に未練があるのか丸子に未練があるのか歸らないので、小笑は三日二晩居り込んで漸く四日目の晝唄凱歌を奏して引き揚げた、一次君は此の時大層儲けた相であつた、夫れは指さ一次君と無事に小笑に引渡したれつるの胸には『ア、して置いてコーして』の成算があつたのだ、中二三日置いて彼れは一次君が開進亭に居るのを確めて扨 丸子を伴れて乘り込んだ、サア此所がれつるの食へない處だ、開進亭でも面白くないお客樣だ、とは思つたが何が扨自分所の小笑が三日も泊つて來たのだから門前掃ひは無論食はす事は出來ない心底は何うあらうとも表面は快く接待ねばならぬ、一次君の臀尻が下る程小笑の臀尻が上つた、丸子は元氣よく一次君に取り着いて嬉しがつて居る此れを見たれつるは膝を叩いて喜んだ 我事成れりと、而して歸り際に此の前の事を棚にして 一次君を 丸子に伴れ歸らせて自身は跡へ殘つて浮世話しの二つ三つも仕て悠々として引揚げた、其後は一次君小笑の方は見向もしない迄に丸子の專有となつて僅かの間に數千圓を入れ揚げた 一二ケ月に數千圓、何んとしても勘定が合はない、序を以て云ふがれつるは又小笑にも增した八八の名手であると云ふことだ。

●悲劇「浮れ女房」

去月二十二日仁川出帆大連直行の隅田川丸に搭乘したる怪しの二美人は原籍松山市立花町當時京城日の出町一丁目坂口平太郎內妻眞鍋とら（二五）とて曾て京城某樓の娼妓なりしとか一人は原籍小倉市紺屋町當時京城大和町一丁目駒村善藏內妻竹本はな（二二）と判明したるがはなは既に三歳になる子供の有る身なるに孰れも御面ち柄どて量は何でも情夫丈けは新らしいのが好いと二女相談の上マンマと新らしい男を拵へ自分達は一足先に出發し後から男に來る樣と臟し合はせて出立に及んだ跡で女房に逃げられては大變と騷ぎ立てた前記の坂口と駒村の二人は血眼で市中を探して見ても見當らず漸くの事で仁川から船で乘り出した事を探り出し仁川警察署へ願出てドーぞ私の女房に歸る樣大連の御役人樣へ說諭方を御手數煩し度御座いますと叩頭百萬遍懇願で本月一日大連發の城津丸にて仁川に二女送還され亭主を呼出して引渡る

●滿日支局長の公判

▽新聞紙規則違反事件　吉田松太郎の新聞紙規則違反事件は三日午前九時より京城區裁判所刑事法廷に於て書類判事の係にて野田檢事立會の下に公判開廷せられたり被告辯護人として大久保高橋兩辯護士出廷す被告は豫審中の醜暖取財にて拘禁中の事とて看守の監視の下に出廷、汚れたる浴衣着にて訥々として法廷に立つ傍聽人十數人中には警務總監部員もあり事實の審問始まるや被告は犯罪の事實一部を認め乍ら警務總監部が被告の不利益に歸する如く故意に取調べし坏感に觸も付かざる申立を爲し判官に一喝され又檢舉したる久松刑事取調たる鈴木警部を證人として調べて下さいと言つて判官に必要の急所を突き込れ答辯に苦しみたり斯して事實の審問終り辯護人より滿韓日報本社野口社長が本件犯罪となり居る附錄の發行を許したるや否を確むる爲め證人として喚問あらん事を申請し野田檢事は新聞紙規則は社長或は發行人の許否の有無に關せず罰す可き以上は其必要なしとの意見を述べ判事は辯護人の申請を容れ先方領事裁判官に囑託す可しとて閉廷したり

●防築谷の殺人

七月三十日午後七時より三十一日午前六時までの間に於て仁川府田反面道里幌の東方防築谷の路上に於て殺人ありしとて同里長李鎬より仁川警察署に訴出でたるより二日警官出張取調べたる處犯罪の場所は仁川より水原に通ずる街道にして仁川より七里、安山邑一里、樂砂へ四里、安養へ二里、始興へ二里半の位置にあり前記犯行の防築谷とは名だたる險所にして時々追剝の類出沒し晝宿は通行するに心淋しき處なりと云ふ而して被害者は駄牛用の荷繩を以て全身グル〳〵に縛し睾丸を緊縮し胸部には毆打の傷痕歷然とし其上着衣及携帶品に火を點し面部を燒き爛燥せしめたれば容易に其の誰なるや判別せざるも推する所年齡四十二三才位にして身長五尺二寸五分結髮にして農夫体の男なれば或は被害者が同地を牛を牽き通行の際加害者は該牛を奪はんが爲め格鬪の末其の荷繩を以て被害者を縛したる上打殺し該牛を引連れ何れにか逃走せしものならんと云ふ其筋にては目下被害者の身元に付き取調中なるが同加害犯人の嚴探中なり

●小人玉を抱て有罪

仁川外洞客主家朱昌桂方雇人吳聖山（一九）は一日夜旅客より預けられたる物品を見て不圖惡心を起し其中より金三百十圓を横領拐帶して直ちに京城へ來り金二百圓を商業銀行へ預金として預け入れ其餘五十五圓は家屋借入れの手付金其他に費消し二日十二時頃龍山停車場に至り三等待合室に徘徊し居りたるを龍山憲兵分隊の岡崎上等兵の巨眼早くも此奴擧動不審胡亂のものと見て取り直ちに引捕へ訊問せしに逐一前記の犯罪自狀し實は京城にて家か借受け妻を呼び寄せ世帶を持たんと欲し一時五十分着にて妻が仁川より來る故出迎に來りたるものなりと答ふ彼是する內に妻某は停車場に下車すると同時に仁川警察署より追及の爲來れる坂下刑事も同停車場にて落合せ岡崎上等兵と共に有無を云はさず直ちに吳聖山夫妻は引捉られ見事に計畫畫餅に歸し悄然として仁川警察署へ引立られ一とは甚だ以て不量見のヨボなりと云ふべし

●下受人の惡風習

大和町二丁目二百三十六番戶名木竹次郎方神戶市生れ寺本芳太郎（三五）は自己の下請に係る東拓工事に大工小川清次郎原田卯太郎嘉井善吉を三日間勞役し賃金一日金二十錢宛の計算にて支拂ひ居るは知らぬと取り合ぬとて大工三人より寺本を相手に取り南部署に告訴提起せりと云ふが當地下受人及職工間には斯る悶着常に絕えず結果は何日も職工方の泣寢入に終る惡風習あるは屢々耳にする處なり切に嚴重なる取調を希望するものなり

●吉原三郎氏の重態

東拓副總裁吉原三郎氏は二日午後赤痢病に罹り總督府醫院に入院したりと

●若氣の誤りより

龍山元町一丁目三十六番戶運漕業中村慶造方雇人廣島縣人早稻本善範（二一）は中村方に雇れ中鮮路に通じ主人の寬容なる所より薄給の身にあり乍ら朝鮮演藝の見物に耽り鮮妓に迷ひ酒色費に窮し本年五月三十日以降運漕賃金六十餘圓を橫領費消し其の筋に檢擧され檢事局に送られ京原裁判長伊藤檢事の係りにて公判開廷せられしが辯護人岩本英夫氏の熱誠なる辯護と判檢事の同情とに因り懲役六月に處せられ三年間刑の執行猶豫の恩典を與へられたり

●心得違の事かな

水標橋通り二丁目井上秀次郎方京都府人仲傳三郎明治町二丁目長濱善吉方佐賀縣人松山甚三郎の二名は去月三十一日夜新町大和新地貸座敷榮樓に登樓流連して翌夕刻に至り金二十圓二十錢玉代並に酒肴料の計算書を突き付けられ支拂出來ず二日夕刻迄行燈部屋に打ち込れ居しが結局警察に突き出され取調中なるが傳三郎の實兄遊興費支拂ひ告訴取下提出したりと

●雇人の枕探し

長谷川町二丁目本田濱壽夫方雇人長崎縣人松尾茂一（二三）は二日午後十一時頃旭町一丁目運漕店鹿兒島縣人田富基（二四）に連れられ太平町の支那料理店にて互に飲酒し富基が泥醉の儘橫臥したるを奇貨とし同人の懷中に手を入れ金四圓五十錢餘入りの財布を竊取したる爲め南部署に突き出され目下取調中

●豫約金を橫領す

北部寺洞居住寶昌律（四三）は日本電報通信京城支局長牧山耕藏氏の經營中に係る朝鮮紳士名鑑錄の豫約募集の依賴を受け江原道春川郡邑內に於ける李圭完外二十名より徵收したる豫約金五十餘圓を橫領したる事發覺北部署に逮れ取調中

●憐れの乙女子よ

既報原籍鳥取縣當時群山本町渡邊惣吉の娘渡邊せい（十九）は繼母の虐待に堪へ兼ね家出したるを仁川警察署にて保護中の處本日木浦丸にて父惣吉の許に送還さるゝ事なりと云ふ

●狂氣の大盡氣取

二日午前三時頃仁川警察署今井刑事は仲町水津旅館に三十一日より投宿し居る原籍京都市下京區油小路五條下る當時京城旭町二丁目裁縫職大塚元三郎（二九）の擧動不審なるより取調べたる處此奴は無一文の癖に二等客として贅澤をなし居たるも精神病者と判明し本署に引致保護中京城南部署へ電話を以て照會し刑事下仁し本人引取らる

●高價人力車賃

米倉町三十三番戶鄭興三郎（二三）は車夫朴齊鎭（二三）は車賃の事より口論を生じ棍棒を以て朴齊鎭の頭部を毆打負傷せしめ治療代二圓五十錢を支拂ひ訓戒放免

●尻を五十挨らる

貰後九（二五）鄭仁學（三四）金在榮（二七）金柏根（五〇）の四名は二日午後五時頃南部松峴鮮人宿屋に於て賭博の現場を南部署に檢擧され各笞五十に處せらる

●月並報恩講並說教

若草町一丁目曹洞宗兩大本山別院にては明五日午後七時半より月並報恩講を修行し主任田中道圓老宗師の說教及び雕身衆僧の和讃宗匠大問答ありと云ふ

●桃山遊廓の新妓

本籍神戶市荒田町三丁目五十四番地の一小西りさ（二一）は藝名吾妻と稱し又大阪市西區九條町四百八十三番戶庄太郎養女前田ゆい（二一）は藝名國見と稱して龍山桃山遊廓吾妻樓湯川多吉方より現はれたる何れも大々的大車輪となりて營業上周旋するところあるべしと

●演藝だより

▲龍山座　好人氣なる大阪二〇加會我廼家の合同劇四日の替り狂言は忠臣藏七段目、西洋洗濯屋、おしゆん傳兵衛堀川の段、鉛大工等にして其の重なる役割左の如し　おかる、下女かま（東市）寺岡平右衛門（小六）傳兵衛（團二郎）與二郎、帆納仙太郎（晃平）おしゆん（京蝶）

▲壽座　毎夜大入好人氣なる木村猛夫一行四日の替狂言は「天地金の神 金光教の靈驗 後の灯火」全十場なりと云ふ其の重なる役割左の如し　妻小芳（君子）藤井小政（梓華）姑お力（鈴木）妾ぬい（福澤）山下（寺田）朽木部長（桃井）無國蘆田伯父正木（木村）

▲浪花館　浪花光廣一行の浪花節にて前夜通り木戶錢代共無料なりと云ふ

平民文庫

▲第○分隊では隊長更迭後部內はゴタゴタして居る新任特務の○村某は同僚間の穴探しを行る夫れが某中尉の氣に入つてる此の後は何うなるのだ（心配生）▲本町の相撲師の土俵と四本柱丈けを夏中保存し素人相撲を取らしたら宜しかつたらうなア（角力狂）▲過日滿韓日報社員某と稱する者我々新移轉者各戶別に來り廣告を要請せられしも我々は或る時機まで廣告は申合せて見合せ居る故を以て謝絕せしに名刺丈を要請し持去りたり然るに此所に又三南新報の發刊ありしが見れば我々一同の廣告掲載しあり併し誰一人之を依賴せし者なし此れ同紙發刊の紀念の爲め我々に同情を以て好意的無料廣告せし者であら

くだりばら・あかだま

うか（八月二日新町遊廓內大和新地一同）▲桃山樓の前を通つて仲居に袖を手切られた男よ僕も其晩桃山樓に居合せた一人だが君は同樓に借金が有るので仲居に催促されたのに逃げ出さんとしたので袖口を押へられたのだ然るに紙帳の記事を投書するとは不都合だ着物の損害が欲しければ借金を拂つてから掛け合ひ玉ゑ（ヒヤカシ男）▲通行實見生の申さるゝ通り實際西洋人宅は甚だ不埒千萬だ、面からスグ下手の方では朝鮮人、支那人等が長い柄の杓を以て往來に撒水して居る撒水と云ふより撒糞である時恰も夏季に際し不潔殊に甚だしく其の筋の嚴重な取締を切望す（日本帝國民）▲本町四丁目黑帽子號の二階に姉妹二匹の犬が居て一匹の雄を二匹で爭つて居たが遂に妹犬の勝となつた婆さんは好い面の皮だと何んだか判らぬ投書は沒（係）▲青木堂の階上食堂は愈々二日から開始したが準備も整ひ室も清潔閑靜だ四方の窓より凉風は來る申分ないゾダカラ大繁昌だ（アイスクリーム）▲南部探險後援大[illegible]會は面白い節して尤も宜しきを得た催しだ白瀬中尉が恥を搔いたら日本陸軍の名否、日本人全体の顏に係る大に授けさる可からずだ（への字）▲米の値が高くなつたので總ての物の値が昂騰つた細民は益々堪らぬ（甜瓜）▲今度の相撲が來て儲けたのは宿屋だらう損をしたのが勸進元だナ（純化子）▲僕と云ふ記者さん夏の三郎のぶらつ記を書いて下さいよ待つて居ますからね（郡の男）▲僕は……ん御注文ですよ（小僧）▲併合紀念提灯行列京城日報社にて主催す至極の思ひ付きなり奮て參加すべし（町人）▲○○寫眞館主の弟々男なることは世間で知ぬことはないが今度も懸きとした夫人があるのに下女を孕ませ目下ゴタ〳〵中だドーダネ記者さん一つ探して揭げたら、左樣だつたら恐しく申上げます（土管生）▲待ちに待ちたる青木堂の階上食堂愈々二日より開業する相だ準備も整ふたので頗る繁昌するだらう（江戶奴）▲北島辯護士が今度移轉したる事務所は仁川寺の下で裁判所の近くで非常に便利だ（依賴者の一人）